

第 11 回 恵那市恵那南地区統合中学校準備委員会
総務部会（会議録）

会議の名称 第 11 回恵那市恵那南地区統合中学校準備委員会総務部会
開催日時 令和 6 年 11 月 26 日（火） 午後 7 時 30 分から
開催場所 串原コミュニティセンター サンホール
議題

- ・課題 No. 5 制服・体操服・かばん・上履きについて
- ・課題 No. 2 校歌の制定について
- ・課題 No. 3 校章の制定について
- ・課題 No. 4 校訓の制定について

公開非公開の別 公開
出席者 委員
原田 英明
安藤 善和
杉山 淳
小木曾真由美（Zoom 参加）
市岡 信宏
岡庭 寿則（Zoom 参加）
小木曾 美香
中垣 野歩
成瀬 久志
根崎 紀幸
堀 雄二
小笹 寿里
成瀬 宰
井出 百合
伊藤 実千江

教育委員会
青木 茂 西尾 功 古川 暉久
志津 博光 勝 有紀

制服サポート業者
岐阜菅公学生服（株）

副部会長 失礼いたします。それでは、予定の時刻となりましたので、まだこれからお見えになる方もいらっしゃると思いますが、ただいまから恵那南地区統合中学校準備委員会第11回目の総務部会を始めさせていただきます。進行のほうは、私、串原小中学校校長の安藤で進めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

1 部会長挨拶

副部会長 それでは、まず初めに部会長挨拶、原田会長様、お願いします。

部会長 皆さん、こんばんは。ちょっと天候が荒れてくる感じなので、なるべくさくっと終わらせたいんですが、前回の総務部会からその後、理事会をやりまして、校歌及び校章に関して、それぞれの委員会をつくるという話が総務部会で出ましたが、理事会において、それはちょっといかがなものかという話になりまして、事務局を中心にやっていって、総務部会でもう一回確認するぐらいのことにしないと、会議ばかり増やすとちょっと難しいんじゃないかという話で、そういうことになりましたので、ご報告をさせていただきます。

今日は、制服のメーカーさんもいらして、一応選定が決まりましたこと、そのことも含めて確認していきたいと思います。どうぞ、進行について副部会長をお願いします。

副部会長 ありがとうございます。

2 確認協議事項

副部会長 それでは、本日、皆様のところに届いております会議の資料の内容に沿って進めさせていただきます。

この後、協議に入りますが、本日の協議内容は4つです。一つが課題ナンバー5の制服、体操服、かばん、上履きについてですが、本日は制服サポートの業者が決まりましたので、そちらの業者の方から、今後の制服の選定についてのスケジュール等について、この後お話をいただくことになります。

そして、課題ナンバー2、校歌の制定について、そして課題ナンバー3、校章の制定について、そして課題ナンバー4、校訓の制定について。

今、原田会長様からお話が合ったとおり、前回の総務部会の後の理事会を経て、こちらの進め方で前回の総務部会から若干変更されたところがありますので、そちらを事務局のほうから説明いただいて、総務部会として今後どのように進めていくかを共通理解していきたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、まず初めに課題ナンバー5、制服について事務局から話をお願いします。

事務局 では、事務局より説明させていただきます。資料の3ページ、第11回恵那南地区統合中学校準備委員会総務部会と書いてある資料です。

3ページをご覧ください。制服着用のルールについては、校長会のほうから案をいただいています。基本的に制服を着用するのは、イベント時は制服を着用する。イベント時というのは、例えば卒業式と呼ばれるような式、それからテストのとき、それから校外的な学習を行うようなときです。普段のときはジャ

ージ、体操服での生活ということで考えています。

それから、これまでの制服も認めるということで、お下がり等も可ということです。ですので、旧の中学校の制服についてもこれを認めていくという方向で、校長会としては考えておられるということです。

それから、かばんについては縦型、現在の明智中、山岡中と同型のものを採用していくという方向で考えておられます。当然のことながら、お下がり等も可で、現在使っているものについて使っていくことも可です。

それから、上履きについては細かなところは決まっていますが、防災等の安全のこともあるので、靴対応とするということで校長会のほうから案をいただきました。

まず制服について、これからサポート業者の方に説明をしていただきます。10月7日の月曜日にプロポーザルのほうを開かせていただいて、選定のほうを行っていきました。その結果、菅公学生服さんがサポートメーカーということで決定をいたしました。今日、これから菅公学生服さんのほうから、制服について、今後の進め方、スケジュールを含め、制服等について紹介をしていただきます。

それでは、よろしくお願いします。

業者

皆さん、こんばんは。岐阜菅公学生服の佐藤と申します。本日は貴重なお時間をいただきまして誠にありがとうございます。恵那南中学校様にふさわしい制服のほうを一緒にご検討させていただこうと思いますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

画面をつなぎますので、少々お待ちください。

本日は、まず初めに、先ほどご紹介いただきましたプレゼンテーションでご説明させていただきました内容を簡単に、時間もありますので、抜粋してご説明させていただきますと思います。

まず、今回の恵那南中学校様の制服検討ですが、プロジェクトチームを組みましてご提案をさせていただきます。本日は、その中から営業担当の佐藤と、私、企画責任者の加藤で参らせていただきました。よろしくお願いいたします。

では、10月7日に行わせていただきましたプレゼンテーションの内容を簡単にご説明させていただきます。

現在、恵南地区の詰襟、セーラー、大体これぐらいの販売価格帯ですよというのが調べとしてありまして、中でも中心価格としての4万2000円、新入生の方々がお求めになられる大体の中心価格なんです。これを基本に考えまして、これよりも安くお求めいただけるブレザー、また、少し値段は上がってしまうんですけども、少し違った機能のあるブレザー、ジャケットの2種類のブレザーをご提案させていただきました。

そして、これを順番に素材説明としてさせていただきますと思います。

まず、一つ目がウルトラツイルニットと、いわゆるニットブレザーというものを提案させていただきました。

ジャケットが、ストレッチが非常に効いたものになりまして、こちらが実際の

ものになりますが、横方向に生地が64%も伸びるようなものになります。この64%は多分あまりぴんとこないかなと思うんですが、従来の詰襟やセーラーでストレッチがあるものが大体10%程度でしたので、従来の学生服の約6倍以上の動きやすさを誇るブレザーとなります。

そして、設計も非常に動きやすい設計を施しておりまして、前傾姿勢が楽とか、腕が上げやすいとか、そういった特徴的な設計になります。

また、生地としては、動きやすいストレッチ性に併せてしわになりにくいという特徴もございますので、かばんの中に入れて持ち帰ったとしても、きれいな状態でまた着れたりとか、ご家庭でお洗濯していただいた後もきれいな状態で着ていただけると、そういったものになります。

また、ニットというジャケット素材の特徴として、ジャージのようにすごく動きやすい、軽い、そんな素材なので、耐久性を心配されるお声も多いんですが、最高基準の耐久性をしっかりと網羅したのになりますので、そこもご安心いただければと思います。

そして、特徴の一つとして、キュプラという特殊な繊維が入った素材になりますので、調湿調湿機能がございます。今日もそうなんですけど、外はすごい寒いですが、体育館を温かくしていただきますと、ジャケットを脱いだりとかもちろんありますけど、そういった形で、同じジャケットを着ていても、状況によって体温の関係や服の中の温度って変わるんですね。その衣服内の温度を適切な状態に保ってくれると、そういった特殊な効果がございます。

こういった素材を、一つ目の素材、ウルトラツイルニットとしてご提案させていただきますと、このジャケットをお求めいただきますと、現行の詰襟やセーラーの中心価格よりは、もう少し安価にお求めいただけるようになるかなというふうに考えております。

また、もう一点の素材がコーデュラ・ストロングサージというものになります。こちらは非常に耐久性の高い素材でして、ノースフェイスやポーターなどでも使われるようなナイロン素材、こちらを学生服業界では菅公のみが扱っております。一番の特徴は摩擦に非常に強いというところでして、金だわしなどでがあつと思いつ切り制服をこすると、大体6万回こすれば穴が空くというのが、学生服の基準です。ただ、コーデュラはその6倍以上の耐久性を誇りまして、38万回もこすっても穴が空かないと、こういう試験結果を持っております。

これだけ強いと、もちろん着ていて転んで破きにくいとか、そういうのもあるんですが、3年とは言わずに6年、9年と長きにわたって着用ができますので、ご兄弟とか、また、後輩などへのお下がりやお譲りといったことも大変しやすい素材となります。

当然着るご本人の快適性も大事ですので、撥水加工ですとかストレッチ性といった、そういった学生服に欲しい機能もしっかりと網羅した素材になります。

このように菅公は、この2素材をご提案させていただいたんですが、この2素材、両方とも店頭において、ご家庭の考え方とか生徒様の着たいほう、そういったものを選べるような形でのご提案を考えております。

実際に今マネキンをあちらに3体ございますが、手前2つはコーデュラ、一番奥の女子のスラックススタイルはキュプラを着ているんですけども、遠目に見たらどっちを着ているかというのは多分分からないんじゃないかと思います。このような形で、見た目での差異もなく着用いただけるようなジャケットをご提案させていただいております。

ボトムスは、冬も夏も1本で着用できるオールシーズン素材というものでご準備をさせていただきました。

こちらの素材は、冬は、通常の冬よりも太陽光蓄熱がありまして、衣服内を調温してくれますので暖かい素材。夏は吸汗速乾や調温調湿機能、熱を外に放射させてくれる機能もありますので、通常の夏と同等ぐらいの涼しさのものというものをご準備させていただいております。ここについてはオールシーズン素材で、また、柄物もありますので、今後のご検討かなと思っております。

また、ご要望に応じて夏物の導入というのも検討いただける内容になってまいります。

少しブレザーの話に戻りますが、設計面については、完全に男女兼用型でお作りをさせていただきました。サイズ設計から全て兼用です。前合わせのボタンが右前、左前が自由に付け替えをすることができる設計となっておりますので、男の子が右前とかそういったものはなく、自由に着たい形で着用いただくことが可能になります。

また、スラックスについては、今マネキンが着ているものは一応1型、2型という呼称で、男子体系、女子体系に合ったものでご準備しているんですけども、男子体系、女子体系関係なく1本で運用される市町村さんや学校さんも非常に多くありますので、この辺りもご要望に合わせて展開させていただこうと思っております。

ご提案のデザインですが、濃紺のブレザーでご準備をさせていただいております。冠婚葬祭などでも着用しやすかったり、こういったお顔立ちの方、体系の方でも似合いやすい、着やすいデザインとしてご準備をさせていただいております。

また、ボタンについては、オリジナルデザインを様々なものがお作りできます。営業担当の佐藤が恵那市を観光しまして、一番印象深かった水車を今回デザインとして考えたんですけど、この辺りはまた後ほどデザインとしてご提案させていただければと思っております。

今後のスケジュールについても一応プレゼンテーションの中でお伝えをさせていただいているんですけども、年度内には最終制服、こういった方向性でというところを確定させて、生地手配の準備を進めてまいりたいと考えております。4月には完全に完成して告知もできるように進めていければなというふうに考えております。

今後のスケジュールプランの一番の肝が、複数のデザインを最終候補案としてお作りをして、在校生の方々や小学校の方々などに、人気投票で一番着たいと思う制服を選んでもらうというプランも考えております。

もう一点がボタンのデザインについて、先ほど少し申し上げましたけれど、ここがオリジナルのデザインを作れる一番こだわられるポイントの一つかなと思っています。事例としては、生徒様が作画したデザインを、弊社がデザイナー、おりますので、このようにデザイン画に落として、これも人気投票であったりとか、ここにいる者で、皆様方で決めていただくと、そういったことも可能になります。

かなりプレゼン内容は抜粋させていただいておりますけれども、こういったことが弊社からのご提案内容になります。その上で、本日皆様にご検討いただきたい事項が大きく2つございます。

一つがこちらの資料に記載をさせていただいているんですけれども、我々菅公学制服がご提案させていただいた提案内容を、どこまでそのまま採用いただくかというポイント、あとは人気投票を実施しますか、ボタンの作画などは実施しますかというお話です。

2番目が、実際にアンケートを今の小学生の方々などに取らせていただきまして、その内容を基に制服検討を進めていくに当たりまして、アンケート内容をこういった形でいかがでしょうかというものをお作りさせていただいております。

では、こちらの資料に沿って順番にご説明させていただきます。1番のブレザーについてというページをご覧くださいければと思います。

今回ご提案させていただきましたのが、複数のラインナップから制服を選べる、いわゆるセレクトシステムと弊社は呼ばせていただいております。こちらを採用いただくことで、複数のラインナップ、2素材なんですけれども、2素材からご要望に合った形を選べるということが出来ます。

従来ですと体操服のように指定品という形になって、1種類しか選べないという形が通常なんですけれども、ここが2種類選べるというのは魅力になるかなと思っています。

また、③番の全国でほかにも採用があり、在庫流用が可能となるというのを書かせていただいておりますけれども、実はこのプランは今全国で非常に多く採用いただいておりますので、菅公学生服としても非常に多く製品を作っているものになります。

ですので、欠品なども起こりにくく、皆様お待たせすることも少ないですし、非常に多くのブレザーを一気に作りますので、コストパフォーマンスも少し上代価格に反映させておりますので、これが1校オリジナルとなると少し値段が上がっちゃうよというところがネックになります。

このセレクトシステムというものを採用いただく場合、今申し上げましたように全国でも利用のあるジャケットを使いますので、ボタンなどは学校様のオリジナルで後づけで作れるんですけれども、ここの色を変えてほしいとか、ここに何か刺しゅうを入れてほしいとか、そういったことができませんので、そういったものがしたいよということであればオリジナルブレザー、セレクトシステムではないプランになってまいります。

また、裏のページめくっていただきますと、実際の検討内容ですが、セレクトシステムを採用となりますと、この2素材、先ほどご紹介した2つの素材がそのまま採用となりますので、ジャケットの検討は、あとボタンだけとなります。また、セレクトシステムなしとなった場合は、色を紺ブレザー以外からも選べるような形もありますので、この辺り後ほどアンケートのほうでもご紹介させていただきます。

もう1枚配付させていただいている資料のボトムスについてというところもございます。ボトムスについてというところは、現状コストパフォーマンスのことを考えまして、はくかどうか分からない夏服をご準備するよりは、冬も夏も1本で着用できる製品にはいかがかと考えております。

その場合、選べる生地自体が少なくはなりますので、こちらから複数の柄・デザインをご提案させていただきまして、その中から一番この恵南地区に、恵那南中学校にふさわしいと思う柄を選んでいただくことが、方向性としてはできてまいります。その選ぶというポイントについては、アンケートで生徒様の意見を聞いて採用することが可能になります。

裏のボタン・ワッペン作画というところに関しては、一応、ボタンを基本に考えておりますが、ボタンのデザインを生徒様に考えていただいて、弊社がCG画に起こして、こちらでも人気投票の実施も可能ですし、ここにいらっしゃる方で投票ということもできます。

このデザインについては、皆様のほうでいろんな方々を書いてくれたものを3案程度に絞っていただいて、代表の3案を弊社がCG画にして、最終1案にしていくぐらいの形でやっていけるとスケジュール的にもいいかなというふうに考えております。

実際に、アンケートについては、このように携帯からQRコードなどを読み取っていただくとすぐに飛べるフォームを作成しております。

このように、例えばブレザーの色はどの色がいいと思いますかというのを選択していただく項目であったりとか、カッターシャツ、シャツ類ですね。シャツの導入についてどのように考えていますか、長袖も半袖もポロシャツがいいやとか、市販の白シャツも選べるようにしてほしいやとか、そういったことが選べるようになっております。

そのほかは制服の機能性についてで、どのようなブレザーの機能性を求めていますかとか、スラックススカートにはどういった要望がありますかという形で、皆様のご意見を反映させた検討ができるように進めていければと思っておりますので、アンケート内容はこれで問題ないか、この辺りも一緒に今日、確認いただければと思います。

すみません、ちょっと時間がいっちゃんいましたが、これぐらいが弊社からのご説明内容となります。何かご質問などがございましたら、はい。

委 員	例えばニットの素材の場合だと、ニットアレルギーとか、何かアレルギーの対象になるというか、そういう方もいらっしゃったりしますか、今までの中で。
業 者	今までですと、ブレザーでのアレルギーの話は特に起きていないですけども、

もし、ちょっと肌が弱いよという方がいらっしゃれば、裏地をちょっとそういう特殊な繊維に変えるなどの設計はできます。

あとは、どちらかというと、シャツでそういった話が起きることが多いので、カッターシャツを菅公製品のオリジナルで1個に絞っていたりすると、素材を綿100%に変えたりとか、そういうことはあるんですけど、今回、この恵那南中学校様では多分シャツを指定ということはないと思うので、そういった方はアレルギーに対応できたものを求めた形になると思います。

委 員 パンツとかはそういう。

業 者 そうですね、パンツに関しては、やはり綿が入ったこういう、いわゆる、ちょっと重衣料、スラックス系で今まではいたことのないものになるので、チクチクするとか、そういったことをいただくケースはあります。

基本的には、毛羽の立ちを防ぐために、一度洗濯機で洗っていただくと大体そういうのは収まるんですけど、それでも気になるとか、アレルギーだよという方は、裏地をつけるような特殊設計を別で対応することは可能になります。

副委員長 そのほか何かご質問ありましたら。

委 員 もう一個聞いていいですか。

副委員長 はい。

委 員 すみません。セレクトシステムにすると、個人個人で値段が変わってくるということですか。

業 者 2種類のブレザー、今回ですと、ウルトラツイルニットというジャケット素材と、ストロングサージ・コーデュラという2素材から選べる形になりますので、例えば新入生で加藤と佐藤がいました。私はすごく動きやすいものがいい。佐藤は下に兄弟がいるのでコーデュラがいいというふうに、需要に合わせて買いたいものを2種類から選べるという形になります。

委 員 なので、個人個人で値段が変わってくるということですね。

業 者 そうですね。個人個人、そうですね買うものによって、そこだけ若干価格が、同じ店内でも変わります。

ただ、ここに書いてある価格というのは、あくまでメーカーである弊社の概算の参考価格になるので、販売店が例えば5店舗あったとしたら、A、B、CとD、Eで、全部価格がきれいにそろっていたら、それは逆に談合というか、おかしい話になるので、その時点でちょっと差が出ることもあります。

委 員 あと、このパンツの値段というのは出てなかった気がするんですけど、これは含まれた値段ということ、上下で。

業 者 そうですね。大体39,000円と43,800円、これが4,000円ちょっとの差なんですけど、ジャケットの価格がコーデュラとキュプラ、ニットで4,000円ぐらい差があって、ボトムは一緒なので、合算で大体これぐらいになるかなと想定しています。

委 員 ありがとうございます。

委 員 私からも質問いいですか。

そうしますと、例えば何年かして下のボトムスのほうだけ買いたいというとき

には、今言われたぐらいの4,000円ぐらいですか。

業 者 ズボンとスカートは大体14,000～15,000円ぐらいになろうと思います。

委 員 14,000～15,000円になる。ボトムスが14,000円。

業 者 スカートは多分もうちょっと高いですかね。16,000円超えてくると思います。

委 員 別途買うこともできるということですね。

業 者 そうですね、そこは大丈夫です。（発言する者あり）

委 員 いいですか。

副委員長 はい。

委 員 ブレザーとボトム、色って何種類から選べたりとかあるんですか。

業 者 はい、ありがとうございます。ブレザーにつきましては、正直、やろうと思えば、どんな色でもある程度は作れるんですけど、どうしてもお値段が変わりますので、ある程度、選ばれたときに、今お伝えしている価格から大きく差が起きないような、常識の範囲内になるようなと考えますと、ジャケットは濃紺、グレー、グリーン、ブルーグレー、この4色の中で人気投票をしていただいたものでニットブレザーが作れますので、それでご提案させていただこうかなと考えております。

ボトムスにつきましては、冬・夏通年素材でという形になると、正直あまりラインナップが多いわけではないので、こちらから例えば最初5案出さしていただいて、そこから皆様が3案や2案に絞っていただいて、人気投票という形で、ちょっとずつ振るいにかけていくような形が取れるといいかなと思っております。

委 員 ありがとうございます。

副委員長 よろしいでしょうか。（発言する者なし）

事務局のほうから何か付け足しはございますか。

事務局 いいです。

副委員長 大丈夫ですか。

事務局 はい。

副委員長 あと、今、制服を持ってきていただいていますか。

業 者 はい。もし、お時間が大丈夫であれば、実際さわっていただいたりとかできればと思って持ってはきたんですけど。

副委員長 よろしいですか。じゃあ、見たい方がいれば今、ほんの少しだけ。

事務局 見たい方もみえると思うので

副委員長 実際にストレッチの素材と言う事で伸ばしていただいたりとかして、実際にさわって。

事務局 この後、ご質問いただいた後に、菅公さんにはご退席いただきますので、物は持っていていただくことになるので、今から見ていただいたけるのでお願いします。

副委員長 それはまだ、ご提案いただいた制服の素材について、ちょっと実際にさわって

みていただければと思います。

じゃあ、すみません。5分ほどですけれど、ちょっと実際に皆さん、実際に見ていただいて、2つの素材。

副委員長 ありがとうございます。それでは……。

業 者 すみません、1個だけ最後、補足でよろしいですか、申し訳ありません。

副委員長 はい。

業 者 先ほどの説明、漏れまして申し訳ありませんでした。

今画面にあるこのプレザーのカラーバリエーションについてですけれども、コーデュラでは、この色は出せません。また、複数のラインナップから選ぶとなった場合は、濃紺だからできる設計と、色のピタッとくる形になっていますので、グレーやグリーンやブルーグレーを選ばれた場合、同じ色がコーデュラで出すことができませんので、先ほど言っていた選べる、セレクトシステムというのが不可能になります。

ですので、セレクトシステムを採用しようとなった場合は、アンケートからこの1番のカラーバリエーションはちょっと削除させていただきますので、今日ちょっとこの後、そこだけ決めていただければなというふうに考えております。すみません。よろしくお願いいたします。

副委員長 それでは、菅公さん、どうも今日はありがとうございました。
(業者退席)

副委員長 それでは、確認ですけれども、今日、どれにするというような決定するところではありませんので、まずはプレゼンのところでご提案いただいたものを皆さんにご覧いただいたということで、今あったような、どのような内容をこの後、子どもや保護者の皆さんにアンケートを取っていくのかといったところについては、またこの後、事務局のほうからもご提案いただきますので、ご承知おきください。

それでは、事務局のほうよろしいですか。

事務局 では、次に行きます。先ほどのプレゼン、第11回と書いてあるもの、4ページをご覧ください。校歌の制定等についてです。

先ほど、部会長のほうから、理事会のほうの話ということで、10月3日木曜日、理事会のほうが開かれました。そこでご意見をいただく中で、こちらの部会のほうでは、校歌作成委員会を立ち上げてやっていくということで議論をしてきましたので、そこで提案をさせていただいたところですが、やはり時間的な制限もある、それから、もっと動きやすい形でやってもらったほうがいいんじゃないかということで、教育委員会事務局を中心となって決めていけばいいというようなご意見をいただきまして、先ほど報告があったとおり、そういった方向で進めていきたいと考えております。

役割については、委託先の決定、それから、校歌のイメージの決定、提出された校歌の可否の判断、校歌案を準備委員会へ提出することになります。

それで、5ページをご覧ください。歌詞に入れたい言葉を子どもから聞くというところなんです、対象、恵那南地区の小4から中3ということだったわけですが、ちょっとこれ、いろんなところで、校歌だけに絞ってしまうと難しいところもあって、どうしてもその言葉を採用しなアカンということも出てきてしまうので、どちらかというと、もう少し校歌に絞らない形で、別紙、新しい中学に望むことという形でアンケートのほうを取っていきたいと考えています。それから、学年についても、今、小4から中3というふうに書いてありますが、卒業するお子さんたちに新しい中学校に望むことと聞いても、ちょっと表せないところもあるかと思うので、学年についてもちょっと絞っていくような方向で今考えておるところです。中1までがいいのかなというふうに考えているところでは。

それから、校歌の制定については、作詞・作曲を誰に委託するのかということで、今まで様々な議論の場に出てきた方、昨年度の総務部会、それから理事会、それから教育委員会のほうの中での打合せなんか等が出てきた方ですが、橋本祥路さん、それから後藤ケンジさん、haiyosyさん、南こうせつさん、学校の先生（学校OB含む）、志津利弘さん、A I 超校歌、ポリプロ関係から紹介してもらって、後藤左右吉さん、岡田如実さんなどというような形で案が出てきていますが。先ほども言いましたように、教育委員会事務局のほうで委託先を決定してもよいということで、理事会のほうで話を受けましたので、こういったものを参考にしながら事務局のほうで決めさせていただきたいというふうで考えています。

続いて、一括して話をさせてください。7ページをご覧ください。今日皆さんのほうから、ぜひ意見をいただきたいのは、校章についての決定のフローのところと、それから、投票等について、ちょっとご意見いただきたいなと思っています。

校章については、校章案の募集をして、校章案の候補を選定して、校章案を投票して決めていくということですが、校章案の募集です。募集要項の案が、以前お話しとおりのんですが、広報えなに配付したりホームページに盛り込む等やっていくというような形では、いろんな方法があるかと思うんですが、こういった周知の方法。

それから、校章の制定について、8ページですが、校章案の候補の選定についても、校歌と同じように、理事会のほうで教育委員会事務局が責任を持って決めてほしいというご意見で決定していただきましたので、役割については、募集要項、募集方法の決定、デザインの修正、応募のあった校章の中から優秀作を数点選出する、校章案複数を準備委員会へ提出という流れでやっていきたいとは思いますが、9ページをご覧ください。

校章案の投票なんです、ここの辺りどういうふうで決めていくのかを、皆さんで議論いただくと大変ありがたいなというふうに思っておるところです。どこまでの範囲で決めていくのかというところでは。

Aは南地区の小中学生、Bが南地区の在住者、C、南地区の在住者プラス南地

区の中学校の出身者、D、恵那市の在住者、恵那市在住者プラス南地区の中学校の出身者、誰でもというような形があるかと思うんですが、どういうふうに決めていく、誰が投票するのか、この範囲についてご議論いただけると大変ありがたいなというふうで思っておるところです。

それから、10ページ、校訓の制定についてです。校訓の制定についてですが、部会のほうでは校訓の制定という項目で資料のほうは載せてはいませんでしたが、校訓の制定については部会の中で口頭にてお話をして、校訓を制定するか検討を行っていくということで話をさせていただきました。

それで、理事会の中では、校訓、そもそも決めるかどうか、それから学校教育目標については必ず決めなあかんものですが、子どものニーズ等について情報を得ながら、教育委員会と5校の校長で決めていくというような方向で、理事会の方でご検討いただきました。こんな方向で行っていきたいと考えておるところでございます。

それでは、今、課題のNo. 2、校歌、No. 3、校章、No. 4、校訓の制定について事務局より説明をさせていただきました。

この後ですが、今、小、中、こども園の部会ごとに席順になっていますので、特に校章の制定についてどんな校章にしていくのかというところ、それから、募集の要項を、どういうふうに周知していくのか等についてご検討いただけると大変ありがたいなというふうで思っているところです。

もし、その中で、ほか、No. 2からNo. 4、ほかについても見ていただければ幸いです。

以上です。

副部会長 それでは、今お話のあった課題No. 2の校歌、そして課題No. 3、校章、そして課題No. 4の校訓のところまで、事務局のほうから先日の理事会の内容も含めて説明をいただきました。その中で、特に校章の、この後デザインを絞り込んでいくに当たって、どの範囲の人にアンケートを取って絞込むのか、その範囲について各グループのところでご検討をいただきます。

あわせて、ここまでの校歌、校章、校訓のことについて、ご質問等ありましたら、それぞれのグループの中で出していただき、その後、全体で公表するときに、みんなで確認していきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、すみません。各グループですね、司会進行の役をどなたか決めていただきまして、時間でどうでしょう、10分ほどでよろしいでしょうか。

では、前の時計で20時20分をめぐに、各グループでグループワークを進めていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。（「ちょっといいですか」と呼ぶ者あり）はい。

（グループワーク）

副部会長 では、まず最初に、Aグループがこちらですね。では、小学校のほうのグループから出た意見です。校章の投票の範囲ですけれども、南地区の小中学生と、

そして、園・小・中の保護者が当事者としてふさわしいのではないかという意見です。

ちょっとそのほかの意見はまた後で聞きますので、では、Bグループ、こども園のほういかがでしょうか。

委 員 まず、誰が応募するかと、それから誰が投票するかと両方あると思ひまして、募集をかけるのは恵那市全体の恵那市在住者で、投票するのは南地区在住者というのがいいんじゃないかというような感じです。

副部会長 ありがとうございます。

それでは、Cグループ、中学校のグループ、お願いします。

委 員 校章の募集の周知方法についてですけども、一応、広報えなのホームページとかですけども、実際、その中心となる子ども、学校のほうでするにも、そういうスグールを入れたほうがいいんじゃないかということが、どうしても学校学校に関わることなので、学校が中心になってやっていきたいと言う事でスグールがいいという案が出ました。

投票についてですけども、皆さんほぼ同じで、小中学生プラスその保護者の方でいいんじゃないかという意見でした。

以上です。

副部会長 ありがとうございます。

そうしますと、今、AグループとCグループのほうから、Bグループは広く南地区にお住まいのBのところを出していただいておりますし、Aグループ、Cグループについても、子ども、そしてその保護者にしてはどうかというところですので、どうでしょうか。

そうしましたら、子どもについては小中学生、そして、大人については小中学生の保護者に加えて、こちらの部会にも園の方にも来ていただいておりますので、大人の方にはデザインの選定のほうでもいいかと思ひますので、園の保護者についても投票をお願いしていくということによろしいでしょうか。

(発言する者なし)

では、そのような投票の範囲でいきたいと思ひます。

あと、その他のところを出た意見で、まずAグループのほうからなんですけれども、先ほどの校歌の制定についてのところで、資料のところを見ると、5ページにある利用目的を校歌に限らない形に変更という形で、新しい中学校への願いを子どもに聞いていくというところで、事務局のほうでご用意いただいていると思ひますし、校長会のほうでも、ぜひ、願う学校、新しい学校に願うことについて、子どもたちから集まった意見を基に校歌に入れる言葉ですとかを作詞家の方をお願いしてもらいたいし、校章デザインも、これを反映させていきたいというのがありますし、この後、校長のほうで練っていきます教育目標についても、こういった子どもたちの願いについても適宜そこも踏まえていきたいという思ひもございますので、この目的を校歌に限らない形で声を聞くということについては、ぜひ、すぐに事務局のほうで進めていただきたいので。ただ、その範囲を、先ほどの中学校1年生というふうにありましたけれども、

Aグループから出た意見で、卒業はするんだけど、今の中学生2、3年生にも、新しい中学校で、こういうふうに後輩たちが学んでいってほしいというような願いもぜひ入れていってはどうかというのがありましたので、ここにあるとおり、小学校4年生から中学校3年生まで、こういった願いを聞くアンケートを取っていただければという意見が出ました。

Bグループのほうは、そのほか何か意見はありましたでしょうか。

委 員 校歌のほうでは特に意見はなかったですけど。問題は、先ほど校章のデザイン募集要項が今手元にないんですけど、募集対象の枠がなければという、ここで今、議論が、全体の中から。

副部長 これは、事務局のほう。

事務局 第10回のときに、ごめんなさい。資料としてつけさせていただきまして、その中で、募集については、恵那市に限らず、誰でも応募してきてもらってもいいんじゃないかということで提案させていただいたところ、特にそれまづいよというご意見もいただかなかったので、恵那市だけでなく、日本全国というか、世界どなたでも応募してきてもいいよという形で現在のところは考えております。

委 員 ここでは、ちょっとそれはどうかなという意見がございます。收拾つかないんじゃないか。（発言する者あり）

事務局 最初これやるために、予算をつけて賞金をつけようかと思ったんですけど、ちょっと蹴られちゃいまして、無償になります。なので、そこまで多分たくさん出てこないのかなというふうに考えております。

副部長 では、Cグループのほうからは、そのほか意見はありましたでしょうか。

委 員 特に校章のことで話し合っただけで、そのほかのことは特にないです。

副部長 ありがとうございます。

それでは、グループワークで協議いただく内容は以上になります。

そうしましたら、ここまでのところの確認ですが、まず、制服については、本日ご提案いただいた菅公さんのところで、この後、上着や下のボトムスのほうですね、そちらのほうの選定のアンケートを進めていただくことについては、事務局のほうからまたその流れ等提案していただいて進めていくと。めどとしては。

事務局 そうですね、早めに出していきたいと思います。

副部長 できる限り早くということですね。また次回の総務部会等で確認をしていただければと思います。

そして、校歌、校章については、先ほどあったとおり、事務局のほうで委託等の手続は進めていくんですけども、広く願いは子どもたちからも聞いていきながら、この後の校歌、歌詞として、校章のデザインに生かしていくということになりました。校訓、教育目標についても、それを踏まえて校長会のほうで今後練っていくことになります。

ここまでのところで、何かご質問、ご意見がございますか。

委 員 すみません。少し言わせてください。校長会で考える制服は必要である意義と

というのはどういうふうに考えられているのかなというのは、まずすごく感じられたので、そこを明確にしていけないといけないかなというふうに思っています。

理事会でも多分発言があったんですけども、本当に制服が必要なのかなというように意見が理事会でも上がっていたという報告がありまして、そこに対して明確に答えれていなかったのかなというふうに感じたので、多分同じような意見がまた出るかなというふうに思っています。

そのときに、ちゃんと、なぜ制服が必要だというふうになったのかということとを整理する必要があるかなというふうに思っていますので、その辺についてちょっとお伺いしたいなと思っています。

副部会長 制服については、校長会のほうでも必要というふうに考えております。特に学校のいろいろな諸活動を行うときに、やはりフォーマルな服装を必要とする場面があります。幾ら日常生活の多くはジャージで、体操服で過ごす場面が多くなったとはいえ、これは、やはりフォーマルな場面が必要になりますので、制服らしく、そういったフォーマルなまず衣装を用意していただくということは必要になります。

なお、さらにこういったものをそれぞれ個人で紳士服等のところで用意いただくというのも、社会人になればそれが当たり前にはなるんですけども、やはり、公教育のある程度のそういった教育の機会均等では、同じ平等なところの教育活動を行う中で、こういった業者が提案するいい機能を備えた、さらに価格を抑えて、できる限り抑えて提案していただくものを、保護者の方にご用意いただくというのは、これは今の公教育を行っていく上で必要なことだというふうに考えております。

そこで、こういった業者のほうから、制服に求められる機能や、それから価格帯のところのご提案いただきながら、その中で保護者の方に選んで使用していただくということを、校長のほうとしても保護者にはお願いをしていきたいというふうに考えております。

委 員 すみません。追加でちょっと質問をさせてください。

自分、ずっと言っているんですけども、これまでの制服を認めるということで、お下がりも可ということで校長会のほうでは何かされたようですけども、何回も言っているんですけど、何のために昨年度アンケートを取って、その内容をちゃんと見ていただいたのかなというところがすごく不思議でならないというところが、ちょっと疑問を持っているところです。

何が言いたいかというと、アンケートを取った結果なんですけれども、生徒・児童から取った中に「統一感」という言葉がすごくいっぱい出てくるんですよ。これをずっと自分も一回見直してみたんですけども、生徒・児童は統一感という言葉がすごくいっぱいあります。ただ、保護者の中には統一感という言葉がなかなか出てこないです、制服に関しては。

子どもの意見を吸い上げて、統一感という言葉が出てくるのにも関わらず、これまでの制服もと、自分は別に認めてもいいかなと思っているんですけども、

子どもたちとか生徒が統一感と言っているのに、そこについてはどういうふう
に、言い訳じゃないですけども、どう説明、ここの、これまでの制服を認め
るところを、どう説明していくのかというのをちゃんと明確にしておか
ないと、アンケートを取った意味が全くなくなってしまわないかと思っ
ているんですよ。

これだけ多くの統一感とか、そろっていたほうがいい、そういった言葉が出て
いる中で、そういったところをしっかりとしていく必要があるんじゃないかな
というふうに考えているんですけども、その辺についてはどういうお考えな
のかなというところを、校長会に聞いてもよかったんですけど、聞いてもおか
しいなて思ったんですけど、事務局のほうもどう考えているのかなというのを
お聞きしたいなというふうに思います。

副部会長 校長会としては、特にスタートのところから全て同じ制服でそろっている必要
はないという5校の校長の考えであります。

やはり、ただ、南地区の現在の制服を比較したときに、冬服に関しては差があ
りませんので、前の制服を全員が着てきても、全くそれは統一感というところ
でいいますと、全く違うものではありませんし、新たな学校で指定する新しい
制服を着たりとか、着ていったとしても、それは統一感を損ねるということでは
ありませんので、ならないというふうには考えております。

あとは、本当に新しい中学校になるに当たってでも、やはり保護者の方への一
番は経済的な負担の軽減というところは、校長会のほうとしても重要なことと
して考えておりますので、これまで、最初は3年間で移行するというような案
も出ていたんですけども、期限を限らずに、前の制服についても併用で使っ
ていただけるようお願いしたいということで意見をまとめているところです。

委 員 じゃあ、そこもしっかりと今回の制服については説明をする必要があるのかな
と思っていまして、制服を選んでもらうときに、こういったアンケートを取っ
た結果があったのにもかかわらず、そうした理由をしっかりと残していっても
らいたいなというふうに思います。

副部会長 あくまでも、こういったアンケート、最初に取ったアンケートのところも踏ま
えて、校長会もこういった意見にまとめさせていただいておりますので、今度
の事務局のほうから制服のアンケートを取っていただくに当たっては、今いた
だいたような、これまでのアンケート、そして、制服が必要な理由、それから、
校長会のほうとしての考え等も含めて、アンケートの検討をしていただく資料
のところにつけていただくという形でお願いしてよろしいでしょうか。事務局
のほうで作るに当たって。

事務局 承知しました。

副部会長 よろしくをお願いします。

委 員 すみません。長くなって申し訳ない。もう一点だけいいですか。校訓の制定な
んですけども、ちょっとこれかなり今回まずかったんじゃないかなと思って
いるんですけども、これ、開校後に新しい中学校にて校訓を制定してはどう
かを、準備委員会で検討を行わないと理事会で出ちゃったんですけど、総務部

会でそのような承認をされていないのに出ていってしまって、理事会まで行っていたという点については、事務局のほう、どのようにお考えかなと思います。

事務局 総務部会のほうでは、書類としてこういった形でここには示していないですが、議事録の中にもあるんですが、これについてはきちっとお話をしています。

委 員 はい、覚えています。

事務局 なので、そこで皆さんにお諮りをして、特に異論もなかったかと思いますが。

委 員 検討を行わないというところについてはお話しされていないと思いますけど。

事務局 話ししてあろうと思います。

委 員 じゃあ、ここに議事録がありますけど、どこに書いてあるか後から教えてください。

以上です。（「はい」と呼ぶ者あり）

副委員長 はい。

委 員 制服の、イベントのときに着用と書いてあるんですけど、年に何回ぐらい着用をするのか。

副委員長 式でいいますと、まず、始業式、終業式、入学式、卒業式、この式典の場面が今数えただけで8回あります。それから、中間テスト、期末テストがあります。それから、3年生については——1、2年生もですけども、実力テストが年に数回行われます。それから、テストの機会があります。特に3年生はそれが大きな点です。

それから、修学旅行、校外で研修をする場面もこれを着ることになります。2年生は職場体験学習や福祉の体験等、特に制服を着る場面はあります。ジャージで行く場面もあります。

それから、先日、串原の子は恵那文化センターに発表会に行ったんですけども、ああいった外であるイベントに、ボランティアで参加したりですとかするとき、それから、3年生ですと、進路に関わって、高校見学等に行く場面でも着ることになります。特に中学校3年生は制服を着る機会が大変多くなるかと思っています。

委 員 今回、私、恵那市内のお母さんにお聞きしたんですけど、恵那市全体で中学校の制服の問題があったので、現在、お母さんたちって、お古が回ってくるとか、譲り受けることが少なくって、制服を購入することが結構負担になっていると、ほかの恵那市内全体でお聞きしていて、サイズアウトの問題もあって、そのたびに買うということもできないということから、私は今回、これを皮切りに、全体で、制服の循環システムというのを恵那市全体でやっていけないと考えています。

それを、やっぱり最初に、安藤さんたちにお話しさせていただいたんですけど、今後、LGBTQ を考えて、ブレザーとかの制服という案が恵那市内に出ているということであれば、今後、これを皮切りに、制服の補助金というのを検討していただくという形にしてもらいたいと思って、教育委員会の方とか、ここにいらっしゃる中で、そのお話をしたときに、市議の方に言いなさいということ

言われたので、今回、保護者の中から市議を出させていただいたんですけど。ほかの市議の方、今回、市議に選ばれた市議の方々の、保護者の意見を聞くとか、子育て世代の意見を聞く、声を反映させるということも言っていて、これから住みやすいまちにしていくということをうたっているの、その市議の方たち全体で考えていただいて、恵那市全体の制服、中学校の制服に関しては補助をつけていただくという形を検討していただけないかと思っております。それに関して、どのような動きをしていけば、それがしていただけるのかというところを一緒に考えていただけないかなと思っております。

副部会長 この会は、あくまでも新中学校のところに限ってということですので、またそちらについては、別途相談のほうをお願いいたします。

そうしましたら、制服の循環システム等についても、また民間でやっていらっしゃる方等もありますので、PTAでやっているところもありますので、そういったところもどうかも含めて、また別途考えていければと思いますので。

（発言する者あり）その……。

委員 分かりました。全体でちょっとお話しさせていただきたいんですけど、別途お話しするということはすごく分かるんですけど、これ例えば、じゃあ、補助していただけたらとか、循環システムにしていくという施策になると、じゃあ、何度も洗えるとか、使い回しができるものを選んだほうがいいよねという性格に変わってくると思うんですよ。下に回していくという形になっていくと。なので、別途で考えてしまうと、今回の制服を選択するところにつながっていないので、ぜひ一緒に検討していただけないかなということをお願いしたいんですけど。

副部会長 そちらは事務局のほうで、また。

事務局 ただ、今言われたことをかなえようとして検討していくと、恐らく今回の制服のアンケートには間に合わないかなというような気が今しています。なので、その結論を待ってアンケートと言われると、恐らく何年も先になってしまうので、ごめんなさい。それができなくてアンケートと言われると、ちょっときついなというふうに私は考えています。

委員 それは一個人の考えであって、なぜ、検討をするとか、一緒に考えていただくということができないのかなということが一番疑問なんですけど。

事務局 検討をしていくことはあまり変わらないと思います、いいと思いますよ。ただ、それが終わらないとアンケートができないということになると開校には間に合わなくなってくると思われます。

部会長 先ほどの菅公さんのほうで、卒業された方の制服を回収して、それで傷んだところを修復して、全体に対して出すというシステムはできるとおっしゃっているので、ただ、それを具体的にどう回すかについては、学校でやっていくというのがかなり学校側の負担が大きくなってしまうので、それをどうやっていくのかをむしろ考えていく。例えば、PTAでやるとか、そういう組織、ここに何かつくるとか、そういう形になるかと思います。

そういった意味で、今回の、今日の総務部会で決めたその話は、そのシステ

ムをどうにかする話ではなくて、菅公さんの形でやっていただくという話になったので、まだそのアンケートをどういうふうにするかは、事務局がこれから詰める話になるので、先ほどのセレクトシステムなのか、セレクトシステムらしきものかという話でいけば、セレクトシステムにしておいたほうが、そういうリサイクル的なことはやりやすいであろうということが想定されますので、その辺のことぐらいまでは多分事務局でアンケートの中で、要項に触れるかなと思っています。

副部会長 それか、実際、リユースしていくというところを踏まえて、ご提案があったらいただいていくということですね。

では……。

事務局 今、セレクトシステムの話で1点よろしいですか。

副部会長 はい。

事務局 すいません。先ほど菅公さんから、セレクトシステムを選ぶか、セレクトシステムなしにするか。色を選ぶとセレクトシステムじゃなくなるというのは、素材が、今コーデュラのほうを使おうとすると濃紺しかできないという話でした。今、事務局としては、できればセレクトシステムでどうかなと思っています。それは、濃紺という色は、とても、先ほど言ったように、誰にでも似合うとかいう特徴がある。この素材が使える。あと、この地区、周辺の地区で、ブレザーの高校につきましては、大概紺です。

ですので、今、高校が、周りの中学校でブレザーがないので、そのまま持ち上がって着ていいよというルールはないんですが、ブレザーの学校ができてくると、そのまま中学校のやつを使ってもいいよという話になる可能性も出てきます。そうしたときに、買い替えも必要なくなるのかなと、サイズが合わないとかいうこともあるかもしれませんが、そうすると濃紺でいくのがやっぱりベターじゃないかなと。

そう考えると、やっぱりセレクトシステムで濃紺でいけたらなというふうに考えているところなんですけど、ぜひ皆さんのご意見をいただいて、決めていきたいと思っておりますので、もし、皆さんの中で何かご意見があったら伺いたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

副部会長 色の選択肢を取るか、素材の選択肢を、素材・価格帯の選択肢を取るかということですね。

委 員 このセレクトシステム採用となしの場合の、メリット・デメリットをもうちょっと明確にしてもらったほうがいいのかなと、今言ったことが全てかなとは思いますが、価格が安いのはどっちがいいのかなとか 分からないですか

事務局 すみません。今、業者のほうのやつがあるかと思うんですが、真ん中のところに、ブレザーについてというところを書いてあります。プラン1、セレクトシステム採用、セレクトシステムなしということで書いてあるわけですが。要するに、値段的なところでいったときに、セレクトシステム採用していただくと、値下げができるよ、それに対して、セレクトシステムなしだと、機能だ

- とか、色だとか、そういったものをやっていくので、すごく希少性のあるものについては、やっぱり値段となってきます。それから、襟と、その他の仕様なんかでも一応できるんですが、やっぱりどうしてもお金がかかってくるしということになるかと思います。今のところはここまでしかご説明できないんですが。
- 事務局 こちらに、セレクトシステム採用のメリットというのが書かれているかと思います。これの裏返しがデメリットになってくるのかなと思いますので、価格については、セレクトシステムを選ぶと、今の価格よりも高いやつも安いやつも選べるようになるのではないかなということだと思います。
- ただ、ごめんなさい。ここで現在、絶対今よりも安いやつができるというふうに断言はできません。今の物価高騰の話とか、輸送料の上がる話とかもありますので、必ずしも今より安いところができるかどうか分かりませんが、取りあえず選択肢ができるのが、セレクトシステムなのかなというようなことがメリットになるかと。
- あと、冠婚葬祭にも使いやすいとか、在庫流用が可能になって、応用が利く、なので特殊なサイズだとか、そういったことについても対応しやすいのは、多分こっちのセレクトシステムで、たくさんあるほうを選んだほうがメリットがあるのかなというような気はしております。
- 副委員長 事務局 どうすればよろしいでしょう。グループワークでセレクトにするかしないかを。ここでご意見いただいて、決定は事務局のほうでしていきたいと思っていますので、ご意見があればいただいていきたいと思います。今のところ事務局としては、セレクトシステムのほうがメリットがあると思っていますが、いやこういう意見があるよということがあれば教えていただいて、検討の材料としていただきたいと思います。
- 副委員長 事務局のほうとしては、セレクトでいきたいということなんですけれども、色のチョイスをしたいというご意見が多いようですと、セレクトとは違う決め方になりますけれども、その辺りいかがでしょうか。皆さんとしては、色を選べたほうが良いという方いらっしゃいますか。
- 委 員 セレクトシステムじゃないほうだと、色を選べる、襟元のデザインが決めれるとか、いろいろ、袖の中のデザインがどんな種類かというところが関係するので。
- 副委員長 そうですね。
- 委 員 色だけじゃなくて、形とか、そういったとかまで全部自分たちで決めれるという感じなので、そうすると価格帯が上がっちゃうという形ですよ。
- 副委員長 そうです、そういうことですね。
- 委 員 そこまでこだわり必要ですか。襟はこうじゃないと駄目だとか。
- 委 員 代表として襟が上がっているだけで、ほかにもいろいろできるよというのが、そのセレクトシステムだというだけの話。
- 副委員長 そうですね。
- ただ、セレクトシステムのほうも、下のボトムスのほうは生地デザインも選ぶことになりますので、こちらのボトムスのほうで選択肢があるということで

すね。

委 員 生地が変わるというのは。

副委員長 素材が３８万回こすっても穴が空かない丈夫な生地と、それから、ストレッチ性能があるニット素材のものと生地が選べるようになっています。

委 員 ただ、下のボトムス……。

副委員長 下のボトムスのほうは、先ほど、ボトムスについてのことで、ちょっとこれ、よく見えませんが、柄の取り方が、デザインが違って、若干色味が変わっています。

委 員 素材に関しては、ボトムスは入っていないんですか。

副委員長 ボトムスは（発言する者あり）そうですね。

それでは、上着の色について、特段この色、選べるほうがという意見もないようですので、事務局の当初の提案のとおり、セレクトのほうでまずはアンケートを進めていただくということで、では、よろしくお願いいたします。

委 員 アンケートをするとき、大体の値段を載せて……。

副委員長 大体の価格の目安。

委 員 あと、これと付随して、例えばかばんとかも

副委員長 かばんはちょっと決まっています。まだ……。

委 員 金額的に約どのくらいかかりますよみたいなのが

副委員長 ちょっとそこに間に合うかどうか、まだジャージの体操服の選定がこれからになりますので、トータルの価格については、ちょっとここでは間に合わないと思いますので、まずは制服というところで、およその価格帯についてもお示しいただくということでします。

それでは、長時間にわたりまして、ご議論いただきまして、ありがとうございました。

それでは、次回のことににつきまして、事務局よりお願いいたします。

３ 次回予定

事務局 次回のというのが、まだ日にち等決まっています。今のアンケートの話だと、今日いただいた意見を基に、アンケートも、制服のアンケートもありましたし、どんな学校にしたいかというアンケートもありました。そういったところの進捗状況なんかを今後報告させていただくような会ができればなということをおっしゃっています。

また、近いうち制服のアンケート等について固まってきましたら、また皆さんにお知らせしたいと思いますので、お願いしたいと思います。

以上です。

副委員長 それでは、長時間にわたりましてありがとうございました。これをもちまして恵那南地区統合中学校準備委員会第１１回総務部会を閉じさせていただきます。どうもありがとうございました。